

特定非営利活動法人アサザ基金 第25期 活動報告

2023年4月1日～2024年3月31日

戦争や紛争が相次ぎ、対立と分断が至る所で顕在化しています。それらによって温暖化対策など人類の存続に関わる危機への対応は遅れ、日々深刻さは増すばかりです。人類は今、間違いなく大きな岐路に立たされています。

しかし、「岐路に立つ」ということは同時に、潜在的な可能性が試される人類のフロンティアが目の前に広がっているということでもあります。

人類全体が直面している課題に取り組むためには、人類全体を結ぶ何かが不可欠です。しかし、世界中の人々は、インターネットや SNS などの技術によって結ばれましたが、むしろその普及によって主義主張や立場の違いによる対立や分断が先鋭化しています。それらの動きは、人間の知性を置き去りにして進歩や普及を続ける技術によって引き起こされた、分散化や多様化への、人々の不安や反動の表れでもあります。しかし、分散化や多様化を否定し止めることはできません。

情報交流がどれほど高度化高速化したら、今広がりつつある溝を埋めることができるのでしょうか。AI に象徴されるように、今の技術は社会に深く浸透し、人と人、人と自然の関係を急速に支配しつつあります。その結果、人間は自らが生み出した技術への適応を強いられ続けています（人の生も自然景観も変化しています）。技術への依存は、言い換えれば、答え（技術）の共有による閉じられた世界を生きることでもあります。危機の時代に、人間の潜在的な可能性を引き出すことができるのは、「人間や社会を変える」先端技術なのでしょうか。

それは、答えの共有によっては起きないと思います。人々が問いを共有することによって、つまり、開かれた知（新しい知性の芽生え）によって初めて起きるのではないのでしょうか。

世界に広がる溝を埋めることができるのは、新たな知性に基づく協働社会の実現以外にはないと考えます。新たな知性は、人工知能にではなく、心と体の結び直をした主体としての人間の中に芽生えます。

気候変動や地震などの災害の頻発、流動化複雑化する世界情勢と向き合う中で、私たちは常に変化することを求められています。しかし、本当に変化するには、「変化」とは何かという問いを共有することが不可欠です。

社会を「変える」という発想から、柔軟に変わり続けることができる社会をどのように創るのかという発想への転換、つまり「変えることができる主体」から、自らの知性に基づき「変わることができる主体」への、問いの共有による転換が必要です。それは、変える主体（中心組織）がつくる権威主義社会を分散化し多様化する（民主主義）＝「変わることができる社会」への転換でもあります。

アサザプロジェクトは、次の世界を展望し、「分散した多様な個によるネットワーク」「個々の人格が場として機能するネットワーク」「自然のネットワークと重なる人的社会的ネットワーク」の実現を目指し、この30年間取り組んできました。

分散した多様な個を、個々の人格を場として機能させることで結び付ける。中心の無いネットワークによって人々を結び付けていくために必要なもの、それは、対立や分断を溶かす新たな知性（問いの共有によって開かれた知）です。

2023年度も、アサザプロジェクトの各現場が、そのような知性が芽生える場になることを目指して取り組んできました。

○ 環境教育事業

毎回の授業が、分散した多様な個を結ぶ知性（開かれた知）をひとりひとりの子どもたちに芽生えさせる場となるよう努めてきました。

●牛久市内における ESD 環境学習授業は牛久市教育委員会より委託（2004 年～）を受け牛久二小・向台小・岡田小・神谷小・奥野義務教育学校など 5 校で 21 回、延べ 1047 名が参加しました。従来の授業に古民家プログラムが加わり、馬やヤギとのふれ合い体験や竹を切る竹林整備など里山での活動が子ども達には大変好評でした。

●流域内では鹿嶋市立豊津小 2-6 年生（30 名）が川の探検授業、玉里学園義務教育学校 4 年生 7/18（66 名）に湖とアサザの授業を実施しました。笠間市立みなみ学園 5 年生（23 名）は 6/28 7/25 9/28 涸沼川の生き物観察や霞ヶ浦とのつながりを学ぶ授業を行いました。
合計 5 回（165 名）

●流域外では秋田県潟上市立大豊小 6 年生（34 名）が 11/15 学校 BT の成り立ちや今後の課題について話し合い、岡山県では、岡山エコサポーターズ小桐さんのコーディネートにより岡山市立小串小と山間部にある中和小の交流授業を進めました。6/1 小串小 3-4 年座学（7 名）6/7 中和小 3-4 年（5 名）6/22 小串小 3-4 年放置竹林を考える（7 名）7/13 小串小 3-4 年海辺の生き物観察（7 名）10/5 小串小 3-4 年今までのまとめと交流授業準備（7 名）、10/11 小串小中和小交流学习（12 名）、12/7 小串小 3-4 年学習発表会で伝えたこと（7 名）、2/8 中和小小串小交流授業（12 名）計 8 回（64 名）

●NEC キャピタルソリューションとの協働による「わくわく子どもの池プロジェクト」
（2007 年～）

企業さんと協働で進めている都内での環境学習授業は 17 年目を迎えました。幼稚園と BT 造成以外はすべてオンラインで実施しました。

三光幼稚園 5/15 座学 生き物とお話しする方法（16 名）、霞台小 6/27 7/4 10/26 BT 造成（138 名）、中荻中小 7/28 夏休み講座（72 名）、二本松小 9/5 9/25 10/16 11/1 BT 造成（52 名）、菊川小 10/4 11/2 12/1 BT 造成（30 名） 計 12 回（308 名）

○ 霞ヶ浦の水辺の保全と再生事業

湖の生態系を脅かす水位管理の問題、逆水門の閉鎖、2011 年原発事故による放射能汚染問題など霞ヶ浦を取り巻く問題を意識し続けながら様々な取り組みを行なってきました。霞ヶ浦本体で顕在化している問題の原因の大半は湖をめぐる社会のあり方、流域環境の変化にあります。問題の結果が現れた後でいくら対策を講じても限界があることを、私たちはこれまでの経験から学びました。流域に広く存在し複雑な背景を持つ社会問題への様々なアプローチを通して、より深く霞ヶ浦の保全再生に取り組んできました。

●7/1 小美玉市内の少年サッカークラブと常陸小川ライオンズクラブ主催のアサザの植付会に飯島、木内、諏訪が参加し協力しました。

●納場保育園の子ども達が 5/23 苗づくり（37 名）、9/1 トンボ公園でアサザの植付（30 名）帰りに古民家で里山体験をしました。

●9/15 プロテリアル社員ボランティア（7 名）が霞ヶ浦でアサザの植付をしました。

●9/26 新宿かっぱ村有志が潮来市水郷トンボ公園でアサザの植付を行いました（14 名）
霞ヶ浦で絶滅してしまったアサザが定着するよう工夫をこらし、一株が越冬しました。

●大日本印刷にはアサザの里親として、苗づくりに協力いただきました。

●水郷トンボ公園では、元ジャランボプロジェクトの永峰さんが日常的に管理され、開園作業 4/28（20 名）と閉園作業 11/8（20 名）には当基金とジャランボ PJ メンバー、市の職員も参加し蕎麦がきや芋汁を楽しみながら作業を行いました。

○ 水源地保全事業

霞ヶ浦流域の主要3河川の水系に位置する牛久市、鹿嶋市、桜川市での水源地再生事業を中心に、将来の流域展開を視野に入れた取り組みを行なってきました。参加企業さんの協力により、水源地保全の酒米作りは堅調です。もち米から手作り煎餅も増えてきました。各水源地に古くからある集落の人々の暮らしに寄り添った形で事業展開を行い、過疎化高齢化など地域の課題への解決策の一つとして水源地保全再生事業を根付かせていく努力をしました。

● NEC 田んぼづくりプロジェクト with アサザ基金

(2004年～石岡市東田中、2010年～牛久市上太田)

田植 5/28 (93名) 稲刈 9/30 (99名) 3/16 白菊酒造での蔵出しイベントに参加
バケツ稲プロジェクトでは全国の社員さんに自宅でお米を育ててもらいました。年間を通して達人の皆さんにご支援いただいています。石岡市と牛久市の2拠点で活動しています。

● 三井物産谷津田再生プロジェクト (2007～牛久市遠山)

田植 6/4 (50名) 草取 7/23 (46名) 稲刈 9/23 (50名) 仕込 2/17 (20名)

谷津田再生イベント 3/23 (27名)

子ども達がとても元気でのびのびしています。若いファミリーの参加が素晴らしい！

秘密基地はここから始まっています。

● SUZUYO いいね！プロジェクト (2018年～牛久市遠山)

田植 5/27 (24名) 稲刈 10/8 (12名)

ユニフォームで社員の団結力をアピール！環境学習へのご支援も誠にありがとうございます。

● かっぱん田プロジェクト (2010年～牛久市遠山)

ラーニング生を2名受入ました。田植 5/5 (20名) 稲刈 9/6 (8名) 収穫祭 2/18 (8名)

谷津田での米作りの他、竹細工や竹灯籠、餅つきなど精力的に活動しました。

● ホギメディカル谷津田再生プロジェクト (2009年～牛久市奥原)

田植 6/3 (60名) 草取 ホテル観察 7/22 (69名) 稲刈 10/7 (54名)

仕込み 2/10 (15名) 蔵出 3/9 (28名)

ホテルの出現に目覚ましいものがありました！ご協力下さった方々、ありがとうございました。

● UBS RICE Project (2008年～鹿嶋市山之上)

田植と自然観察会 5/13 (110名) 草取 6/24 (50名) 稲刈 9/18 (70名)

お酒の他に育てたもち米から揚げ煎餅 (650袋) を作り社員に提供しました。

高齢化している地元の皆さんに支えられ、国際色豊かでエネルギーな社風に元気をいただいています。古民家プロジェクト 3/31 (36名) では竹林整備にもご協力いただきました。

● レゾナック お米で自然とつながろうプロジェクト (2017年～桜川市)

田植 4/22 (51名) 草取りホテル観察 6/10 (44名) 稲刈 8/27 (35名)

筑波山を望む歌垣の郷。イノシシ、ブヨ対策に苦労しましたが、参加者は楽しく活動しました。

● SBI FX トレード(株) 未来へつなぐ田んぼ再生プロジェクト (2023年～牛久市島田)

田植 5/20 (30名) 稲刈 9/16 (33名) 餅つき 3/24 (22名)

「未来へつなぐ絆煎餅」(600袋) が出来上がりました！猛暑の中稲刈りが大変でしたが、米作りの規模を拡大する計画もあり、大きな一歩を踏み出しました。

○ 耕作放棄地の活用

アサザの古民家に導入した馬や山羊の飼料を地産地消で賄うことで、広大な耕作放棄地や放置竹林、手入れの行われなくなった里山への働きかけにつながることがわかりました。今年度も馬や山羊の飼料のほぼ100%を地元や流域から採取することができ、大量に発生する馬糞を堆肥にして再生した農地に還元しました。

○ 古民家を活用した環境保全と地域活性化

古民家所有の会員さんから購入してほしいとの申し出を受け、8月30日に売買契約が成立。アサザ基金所有となりました。農閑期となる秋から冬にかけて古民家周辺の竹林整備を進め、下の谷を馬のパドック場として活用できるようにしました。

- 竹細工講座 籠作り 11/11 (1名)・コースター11/26 (3名)
- 門松作り 12/10 5名
- ギターコンサート 4/15 (13名) 11/5 (10名)
- フリースクール SONORA の子ども達活動 12/25 (25名) 1/14 (10名)

○ 自然観察会などの自主イベント

コロナ禍だからこそ、少人数でも野外で自然を体験出来る企画や提案を心掛けました。

- ベニマル広場でオーガニックハロウィン (4回目) を実施 落ち葉かき 紙芝居 ススキミズク作り 11/2 30名 神谷自治会や子供会と一緒にしています。
- 保育園の仲良し家族が古民家で体験活動 7/15 (15名) 11/23 (20名)
- LFA の子ども達が古民家で体験活動 8/20 (15名)
- アサザ学習塾を始めました。講師は正会員の岩瀬公一さん 8/4 (3名) 8/11 (2名) 8/13 (2名) 8/16 (3名) 9/24 (3名) 11/26 (4名) 1/28 (1名) 2/25 (2名) 3/29 (2名) 計 22名

○ ボランティアや研修生の受け入れ

- SONPO 環境財団のラーニング生2名を6月～1月まで受入、アサザプロジェクトの様々な活動を体験していただきました。
- 賛助会員の寺内さんが古民家西の谷津や他の谷津田再生地で水路整備や草刈りなどホタルの生息できる環境づくりに協力いただきました。
- 牛久市島田町古民家周辺の耕作放棄地を手入れしている地元の宮本さんが馬やヤギのエサとなる採草地を提供してくれました。

○ 会報の発行

会報「あさざだより」69号 (2023年8月) を発行し、会員の皆様や学校、関連企業などの関係者に配布し活動紹介に努めました。

○ SNS で活動を発信！

フェイスブックやツイッターを活用して、リアルタイムでアサザプロジェクトの活動を発信しました。

○ 講演、視察、ヒアリングの受け入れ

アサザプロジェクトへの訪問者は大学や個人など様々な方々を受け入れました。4/11 沖縄で活動を始めた清野さん 5/8 潮来市の石田さん 6/26 常磐大学の学生 (8名) 7/16 筑波大学留学生 (20名) 10/17 筑波大の杉浦君 11/18 アーカスプロジェクト (3名) 3/27 国立環境研究所戸川さん

8/31 一新塾の飯島さんの講義も毎年恒例となりました。オンラインで実施しました。

🌸 ご寄附をありがとうございました。
2022 年度の寄付金総額は 19,130,936 円でした。会員の皆様、心ある支援者の皆様のご協力に感謝申し上げます

🌸 イオンのイエローレシートキャンペーンに参加してご支援をいただきました。

アサザプロジェクトへの参加人数 2023/4~2024/3

環境教育事業 1,618 名

水源地保全事業 1,164 名

その他 332 名

計 3,114 名